

令和4年度 倉吉市地域学校推進協議会概要

1 趣旨

地域学校委員会への理念や取組への理解を深めることで、今後の取組の充実を図る。

2 概要

(1) 日時 令和4年6月29日(水) 10:00~11:30

(2) 場所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

(3) 参加者 倉吉市各小中学校地域学校委員

(4) 内容

①挨拶 倉吉市教育委員会 教育長 小椋博幸

②講義「地域とともにある学校づくり」

鳥取県教育委員会事務局社会教育課 社会教育・地域学校協働推進担当

森原 千晶 係長兼社会教育主事

- ・今、なぜ学校と地域の連携、協働が求められているのか
- ・制度の説明 ～コミュニティスクールについて～
- ・制度の説明 ～地域学校協働本部・地域学校協働活動～ など



3 参加者の感想より

- ・これからの時代(次代)を生き抜く力の育成の重要性を感じた。
- ・コミュニティスクール、地域学校協働本部、地域学校協働活動について、わからなかった部分が理解することができた。
- ・地域学校員になり日も浅く、わからない事も多かったが、役割がよくわかり、子どもたちの未来の為に連携をとっていく必要があると知った。ありがとうございました。
- ・「学校を評価する」という第三者的立場で参加していたが、当事者意識を持って学校と協働していく意識への転換が必要だとわかった。
- ・不登校など、問題を抱える家庭があるが、保護者も地域で助られる仕組みが必要だと考える。
- ・人と人のつながりをどうするかが大切である。少子高齢化の進む中で、早く手を打たないと…。一人では何もできない。みんなでやれば大きな力となる。
- ・学校運営協議会と地域学校協働本部との違いがよくわかった。何を目標にしているか、それだけでも本日の講演の機会は良かったと思う。
- ・地域学校委員の役割が今ひとつよくわからないところがある。今回の話では理解できるが。
- ・いろいろ複雑に感じる部分もある。
- ・地域学校委員としての動きは十分ではないが、コミュニティスクールに対する地域の支援は多くできてきていると実感している。

- ・「地域」については、他の外部組織などにも参画してもらえたらいい案が出るかもしれない。
- ・地域学校協働本部のあり方がよくわかった。
- ・お話の中で、様々な地域の取組を知ることができ学びとなった。地域、学校、家庭が仲良く手を取り合って、子どもたちを大切に育てていきたいと改めて感じました。
- ・これまでの活動を見直したり、振り返るよい機会になった。
- ・地域、学校、家庭でのそれぞれの役割を確認しつつ頑張りたい。
- ・なかなか新しい視点での取組が進展しないという悩みもある。
- ・子どもの成長を楽しみに活動していますが、責任を感じている。
- ・授業が面白くなく遠ざかる子ども、サポートが必要な子どもなど、こうした子どもたちに対して、地域の大人たちの役割について理解が進むとよいと思う。